



## シモン・ベルナルディーニ

イタリアのトリノに生まれたシモン・ベルナルディーニは、2002年より名門ベルリンフィルハーモニー管弦楽団の第一バイオリン奏者。ゲストコンサートマスターとして、国立リヨン管弦楽団、ミラノスカラ座管弦楽団、ジュリアードオーケストラなど、数々のオーケストラに招かれ、2000年に奨学金を得てカラヤンアカデミーに入学。その後ベルリンフィルに入団し現在に至る。2007年からは、コンサートマスターとしてミュンヘンのバイエルン放送交響楽団に定期的に招かれ、ベルリンフィルやウィーンフィル、ヨーロッパ室内管弦楽団などでもコンサートマスターを務めている。

ソリストとしての活動は全世界に広がり、ニューヨーク、カーネギーホール、リンカーンセンター、アムステルダムコンセルトヘボウ、ミラノスカラ座、ベルリンコンチェルトハウスなどでリサイタルを行なうなど華々しい。また彼のレコーディングはフランスで優秀な録音に対して贈られるディアパゾン賞を受賞している。

またベルナルディーニは指揮者としても活躍しており、1999年“パリ・若手演奏家の秋”音楽祭でデビュー。その後もモンテカルロ歌劇場、フォンテンブロー歌劇場、ルクセンブルグ管弦楽団などに招かれ、高い評価を得ている。2008年にはベルリンフィルのメンバーによるオーケストラを指揮し、数々の演奏会に出演する。

現在ベルナルディーニ氏はスペイン、バスク地方の音楽院の教授の職にもあり、世界各地でマスタークラスを行い、2005年からはユンゲ・ドイツ・フィルハーモニー、2011年からはスペイン、カスティリャ・レオンユースオーケストラのコーチも務めている。

## ヤニック・パジエ

2007年より本学外国人教師。

パリ国立高等音楽院、イギリスロイヤルアカデミーにてパーカッション、作曲、指揮を学ぶ。ゾルト・ノーチュ、ニール・トムソン、ヤノシュ・フルスト各氏に師事。

その後、フランス、ラムルー管弦楽団において佐渡裕氏の副指揮者を務め、数々の公演を指揮する。スイスロマンド管弦楽団、パリ室内管弦楽団、ミュンヘン放送管弦楽団、フランスユースオーケストラで、マレク・ヤノフスキ氏の副指揮者も務める。その後来日し、兵庫県芸術文化センターオーケストラでもアソシエートコンダクターを務め多くの演奏を手掛ける。来年度より現代音楽を主に活動している京都九条山アンサンブルの音楽監督に就任予定。

作曲家としても彼の作品は高く評価されており、イレナウ・セガラ国際作曲コンクールで入選、これまでもラムルー管弦楽団や兵庫県芸術文化センターオーケストラでも多くの作品が取り上げられている。特に本学サマーコンサートで演奏された“七夕”はとても印象深い作品であり、現在も盛んに作曲活動を続けている。



## 桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金 趣意書

2011年3月11日、東北地方を襲った、大地震、大津波、そして原発事故は、私たちの想像をはるかにこえた大災害をもたらし、多くの人々の尊い命を奪い、故郷を、そして家族の歴史、職業までも一瞬にして奪い去りました。

両親や兄弟姉妹たち、祖父母を突然失った、多くの孤児や遺児たちは、今も被災地の避難所などで、心細い思いに耐え、必死で生きています。

16年前、1995年1月17日、阪神・淡路大震災を経験した私たちは、“桃・柿育英会”を有志の皆様と立ち上げ、10年間は、遺児たちの成長を見守り、教育を受け学ぶ意欲を支えていきたいと思いました。

多くの企業や個人の方々からの募金を10年間続け、4億9千万円を超える金額を集め、兵庫県教育委員会を通して、育英資金として遺児たちに分配しました。遺児たちはそれぞれ学びを続け、今や立派な社会人に成長した人も大勢います。

この度の大震災では、更に多くの孤児や遺児を生みだす結果となってしまいました。彼らを支援し、励ます資金を集めるべく、再び「桃・柿育英会」を立ち上げました。被災地で力強く生きようとする孤児や遺児を共に支えるこの育英会発足にお力を貸して頂きますよう、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

実行委員長 安藤忠雄

[発起人] 小澤征爾 小柴昌俊 野依良治 佐治信忠 柳井正 福武総一郎 貝原俊民 安藤忠雄

桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金 事務局

住所:〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎2-5-23 TEL:06-6371-2227 FAX:06-6374-6260